

し事等を認めざる可らず、たゞ注意すべきは此の碑文の性質上、此等の記事中には必ず誇張の文句の存するもの有るべく、同時に又可汗の生涯中には、此の碑に勒す可らざる失敗の事實も少からざりしなるべきことなり、然も亦其の記されたる事實に就きては大體の上より見て眞を傳へたるものなるべきこと又争ふ可らず。

偕て碑文に記されたる此等の事實が果して何時行はれたるものなるかに就きては、殆んど之を知るべき便宜の存する無く、從て此等の事實が皆可汗即位後の事件なりしか、或は即位前に於ける事件をも記せるものなるかに就きても、明かに之を決定すべき方法無し、唯此の中の(二)の事件は前に述べたる貞元七年(七九一年)八月吐蕃・葛邏祿を北庭に破りたる同一の事件なること略ぼ疑無かる可ければ、正に奉誠可汗阿賿の在位中の事にして、保義可汗は當時其の命を受けて、攻伐の事に従事したるものと見ざる可らず、從て此の事件の前に記されたる、(一)の堅昆征伐の事も亦もとより可汗の即位以前の事たるべきは言を俟たず、^{〔一四八〕}Chavannes, Pelliot 兩氏はXVI行に記さるゝ「復

吐蕃大軍攻圍龜茲、天可汗領兵救援、吐蕃□□奔入于術、四面合圍、一時撲滅云々」即ち(三)の事件を以て、七九〇

年若しくは七九一年(貞元六・七年)の事ならざる可らずと見たれども、^{〔一四九〕}思ふに此の考は余輩が上に述べたる北庭

の事件を偶然誤りたるものにして、此の兩年の間に於て、吐蕃が龜茲を圍みたる記事は、兩唐書以下關係史書中に記さるゝものなし、唯前に引きたるが如く舊唐書迴紇傳に、回鶻の頡于迦斯が吐蕃に破られし時、都護楊襲古を給き殺すや「自是安西(即龜茲)阻絕、莫知存亡、唯西州(即高昌)之人、猶固守焉」と記し、兩唐書吐蕃傳にも亦同一の旨を記せども、此等の記事は何等兩氏の推定をして有理ならしむ可き材料と見得べきに非ず、されば碑文に見ゆる龜茲の救援以下のことは、保義可汗の即位以後の事件なるか否かに就きては之を定むべき方法無けれども、假令此等